

◆ 第 23 回 白石 記念 講座

主催 日本 鉄 鋼 協 会

資源リサイクルの現状と将来

▶ 平成 4 年 11 月 27 日 (東京)

1. 期 日 平成 4 年 11 月 27 日 (金)

東京 JA ビル第一会議室 (旧: 農協ビル) (千代田区大手町 1-8-3 JA ビル 8 階 TEL 03-3245-7456)

2. 演題および講師 (敬称略)

9:30~10:30 我が国におけるリサイクルの取り組みについて

通商産業省立地公害局環境政策課再資源化企画官 瓜生不二夫

各種素材におけるリサイクルの現状と課題

10:30~11:30 鉄鋼業におけるリサイクルの現状と課題

(財)金属系材料研究開発センター新製鋼技術研究推進室主任研究員 坂田 直起

11:40~12:40 アルミニウム (株)神戸製鋼所アルミ・銅事業本部原料部長 水附 博之

13:30~14:30 レアメタル (Ni, Cr, Co) 使用済触媒資源化協会専務理事 舟山 三雄

14:30~15:30 プラスチック (含む複合材料) 通商産業省基礎産業局化学製品課長 田中 正躬

15:40~16:40 産業廃棄物の減量化とリサイクル

(財)クリーン・ジャパン・センター参与・相談部長 元田 欽也

3. 講演内容

1) 我が国におけるリサイクルの取り組みについて 瓜生不二夫

近年の経済成長, 国民生活の向上等に伴い, 廃棄物の発生が増大し, 処理・処分場の不足が顕在化している。こうした中で, 生産・流通・消費の各段階に遡って再資源化を促し, 資源の有効利用を図るとともに, 廃棄物発生・抑制や環境の保全を図ることが急務となっている。

本講演では, 再資源化に係わる我が国の取り組み (リサイクル法, 産業構造審議会答申, ガイドライン, リサイクル国民運動の展開等) について述べる。

< 各種素材におけるリサイクルの現状と課題 >

2) 鉄鋼業におけるリサイクルの現状と課題 坂田 直起

今までの高度経済成長を支えてきた鉄鋼消費量の累積の結果として, わが国の鉄鋼蓄積量は 10 億トンに迫り, それに従って今後スクラップ発生量の急速な増加が予想される。しかも, 今後発生するスクラップは, モーター, エレクトロニクス部品, 使い捨ての空き缶などが増加し, 品質的に劣化し, 再利用されことなくゴミ化することが予想される。このようなスクラップを製鉄原料として活用し, 地球環境を守るための技術開発の現状と課題について述べる。

3) アルミニウム 水附 博之

我が国のアルミニウム需要は, 近年増大し続けており, 1991 年には総需要量 383 万トンの規模に達した。

これに伴い, スクラップの発生量も増加しており, そのリサイクル率の向上が強く叫ばれている。

ここでは, アルミニウムの需要分野の中で第 3 位の需要量があり, 近年アルミ化率が上昇している飲料缶マーケットのリサイクル問題を中心に, リサイクルの現状と課題について纏めてみた。

4) レアメタル 舟山 三雄

鉄鋼に一番縁が深いニッケル, クロム, コバルトの 3 元素について, 通商産業省非鉄金属課が中心となり, (社)新金属協会が 63 年から連続して 4 年間に亘って実施した「レアメタルの高度リサイクル利用促進に関する調査研究会」の報告書に基づき, 各メタルのマテリアルフローから需給状況を把握し, リサイクルの必要性とその現状と問題点を述べようとするものである。

5) プラスチック 田中 正躬

プラスチックはその利便性から年々生産量は増大しているが, 近年, プラスチックの廃棄物問題についての関心が高まっている。プラスチックリサイクル体制の整備は新しい取り組みであるため, 技術的にも費用的にも困難な点が多い。具体的には, 高品質の再生品の開発再生用途の開拓, 回収体制の構築, 再生拠点の充実等の問題があり, 今後, プラスチックの製造業者のみならず, 流通業者, 消費者も含めた積極的なリサイクルの取り組みが期待されていると

ころ。

6) 産業廃棄物の減量化とリサイクル 元田 欽也

今や、廃棄物問題は大きな社会的問題になっており、総合的観点からの対処が必要になってきている。

このような見地から国としても「再生資源の利用の促進に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の制定、改定を行っている。

当センターも通商産業省の認可を得た財団法人として昭和 50 年に設立されて以来、現在に至るまで、「廃棄物の処理及び再資源化の事業」を推進しているので、今回の発表を機会に「金属」というキーワードでこれまでの事業を整理し発表することとする。

①再資源化貢献企業表彰事業 ②実証プラント事業 ③調査研究事業

4. 聴講無料（事前申込み不要）

5. テキスト代 定価 3,000 円（消費税、送料本会負担）

6. 問合せ先 日本鉄鋼協会 編集・業務室（〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-3279-6021）

～．～．～．～．～．～．～

金属間化合物共同研究会「金属間化合物の特異性」シンポジウム（公開）

金属間化合物共同研究会は 8 学協会（粉体粉末冶金協会、次世代金属・複合材料研究開発協会、軽金属学会、日本金属学会、日本セラミックス協会、日本塑性加工学会、日本鉄鋼協会、日本材料学会）が、緊密な連携のもとに、金属間化合物を高温構造材料として実用化するための基礎、および応用研究を多面的かつ効果的に推進し、この分野の学問と技術の発展に寄与することを目的として本年 5 月発足いたしました。

今回第 2 回研究会として下記の通りシンポジウム（公開）を開催いたします。多数ご参加下さい。

開催日時 平成 4 年 9 月 7 日（月） 10:00～

開催場所 日本私学振興財団 講堂（5 階）（東京都千代田区富士見 1-10-12 TEL 03-3230-1326）

10:00～10:10	開会の辞	京大工 山口 正治
10:10～11:40	“Soft but brittle in fracture” 問題	
	・環境脆化	東北大金研 高杉 隆幸
	・組織と結晶構造の異方性	京大工 乾 晴行
11:40～13:30	——昼 食——	
13:30～14:30	延性化の試み—— Ni ₃ Al における一方向凝固効果——	金材技研 平野 敏幸
14:30～15:30	組織制御——動的再結晶——	東北大金研 花田 修治
15:30～15:45	——休 憩——	
15:45～16:45	耐酸化性の改良—— TiAl における SHS-PM プロセス効果——（仮題）	住友軽金属(株)技研 洪江 和久
16:45～16:50	講演会 閉会の辞	東北大金研 花田 修治

参加費（一般） 1,000 円（テキストを含む；当日）

照 会 先 〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉 日本金属学会内「金属間化合物共同研究会」
TEL 022-223-3685 FAX 022-223-6312